

シンポジウム

2015年

12/5 (土)

13:30 - 16:00

(開場 13:00)

梅花女子大学所蔵

中井終子日記を通して探る

# 懐徳堂研究と女子教育の揺籃期

会場：グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル「The Lab.」2F アクティブスタジオ  
参加無料 / 事前申込不要

大阪において、江戸期より漢学の学問所として多くの門下生を輩出した懐徳堂。歴代に渡りその学主を務めた中井家の子孫中井終子<sup>しゅうこ</sup>は、懐徳堂の再建に貢献した兄木菟麻呂<sup>つぐまる</sup>と共に、梅花女学校の教員として女子教育に尽くしました。その終子が保管していた明治・大正期の貴重な写真や日記は、現在梅花女子大学に所蔵されています。今回はじめて、資料のアーカイブ化が実現。懐徳堂研究の新たな可能性と、終子に至る梅花の女子教育の歴史をひも解きます。

## プログラム

- 13:30 ご挨拶  
大阪大学文学研究科  
懐徳堂研究センター長 湯浅邦弘
- 13:40 懐徳堂顕彰運動と中井木菟麻呂  
島根大学教育学部 教授 竹田健二
- 14:45 中井終子日記資料 デジタルコンテンツ紹介  
凸版印刷株式会社
- 15:15 明治初期の女子教育－梅花女学校の場合－  
梅花女子大学 学長 長澤修一
- 15:45 質疑応答



前列向かって左から1人目が中井木菟麻呂、右から2人目が中井終子  
梅花女学校にて

主催 大阪大学懐徳堂研究センター 梅花女子大学 凸版印刷株式会社

共催 懐徳堂研究会 一般財団法人懐徳堂記念会

大阪大学 × 梅花女子大学 × 凸版印刷（株） シンポジウム

梅花女子大学所蔵 中井終子日記を通して探る

## 懐徳堂研究と女子教育の揺籃期

会場：グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル「The Lab.」2F アクティブスタジオ  
参加無料 / 事前申込不要

2015年

12/5 (土)

13:30 - 16:00  
(開場 13:00)

### 基調講演【懐徳堂顕彰運動と中井木菟麻呂】

講演の概要：

江戸時代の大坂において 140 年余り活動を継続した漢学の学校・懐徳堂（大坂学問所）と、明治の末から西村天囚等を中心として盛んになり、重建懐徳堂の建設実現に至った懐徳堂顕彰運動の歴史について概説し、懐徳堂の学主を歴代勤めた中井家の子孫・中井木菟麻呂の日記を用いた懐徳堂顕彰運動の研究について紹介します。また、中井終子の日記を含む関係資料のデジタルアーカイブ化が、今後の懐徳堂研究・重建懐徳堂研究にもたらす可能性について考えます。

竹田健二 プロフィール：

島根大学教育学部教授。1962年島根県生まれ。研究領域は、出土文献を用いた中国古代思想史研究・懐徳堂研究。著書に『市民大学の誕生—重建懐徳堂と中井木菟麻呂』（大阪大学出版会、2010年）、『先秦思想與出土文献研究』（台湾・花木蘭文化出版社、2014年）他。



### 【明治初期の女子教育—梅花女学校の場合—】

講演の概要：

中井兄妹が教壇に立っていた梅花女学校は、大阪で最初のキリスト教系の女学校として、明治維新まもない明治11（1878）年に創設されました。日本の未来を見据え、女性の能力と社会的地位の向上をめざして真の女子教育を展開する女学校としての歴史を歩み始めます。

この梅花の事例をもとに明治初期の女子教育についてお話をいたします。

長澤修一 プロフィール：

2008年より梅花女子大学 学長。主な論文『巖谷小波の本家世界』など。日本ドイツ文学会・阪神ドイツ文学会・日本児童文学会所属。



### 懐徳堂とは

懐徳堂は、享保9年（1724）、大坂町人によって創設された学問所です。江戸時代の後半約140年にわたって大坂学術の発展と商道德の育成に貢献しました。一時は、江戸の昌平坂学問所と並ぶ隆盛を誇ったと伝えられています。

中井竹山（なかいちくざん）・履軒（りけん）兄弟をはじめ、富永仲基（とみながなかもと）・山片蟠桃（やまがたばんとう）などのすぐれた学者を輩出しました。

明治2年（1869）に一旦閉校した懐徳堂は、大正5年（1916）に再建されます。再建された懐徳堂は、昭和20年（1945）の大坂大空襲によって焼失するまで、大阪の市民大学・文科大学として多くの市民に親しまれ、その多くの資料は大阪大学に寄贈されました。



大正15年11月6日懐徳堂 創学二百年重建十年祭典并記念式記念撮影  
前列向かって右より4人目が中井木菟麻呂



重建懐徳堂

### 梅花女学校とは

梅花女子大学は、1878年に大阪で初めての女学校として創設された「梅花女学校」を前身としています。創設者澤山保羅（さわやまほろ）は、神戸で英語を学んでアメリカに渡り、帰国後に浪花公会の牧師となりましたが、日本での女子教育の重要性を感じ、梅花女学校を設立しました。

キリスト教の精神にもとづきながらも、ミッションボードに依らない自給独立運営の女学校として、日本の女子教育黎明期の一躍を担いました。

男子の学校と遜色ない幾何学や経済、英語などの科目を設定し、日本ではじめてバスケットボールを取り入れるなど、時代を先取る学びの場として、梅花は今日まで137年の歴史を刻んでいます。

### 【お問い合わせ先】

梅花女子大学 企画部 広報グループ 茨木市宿久庄 2-19-5 TEL: 072-643-6343 FAX: 072-643-6277